

## 2019年度 運営（事業）振り返り

教育理念：地域社会及び保健・医療・福祉をめぐる環境の変化に応じて、保健・医療・福祉の向上に貢献できる看護師を育成する。

副学校長 原

長期目標	短期目標	振り返り
1. 学校構成員一人ひとりの意思を尊重し、能動的に運営ができる環境をつくる。	1) 教職員のスキルアップをはかる。 (1) 適切な出張研修の選択 (2) 教員間による授業研究の実施 (3) 自己評価制度を活用した自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教員が目標を到達するための研修を選択し学校として確認しながら受講できるようにしていった。しかしコロナウィルス感染拡大防止に伴い3月の研修が中止となった。そのため今年度教員の研修が十分にできていない。</li> <li>教員間による授業研究は少なかったため課題が残った。計画的に授業研究を行う必要がある。授業評価をし、評価から今後の授業へどのようにいかすかなど考えることができている。カリキュラム評価については新カリに向けて行っていく予定。</li> <li>教員の自己評価は、4月・9月・2月に行った。その自己評価をもとに面談を行い、達成度や課題について確認した。</li> </ul>
	2) 定期的な会議を行い、連携を図る。 (1) 参加者の選択と議題の焦点化を図る。 (2) 講師会議を実施する (3) 学則等の遵守を徹底する	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議時間を超えることもあったが前年度よりも会議時間内で終わることができている。</li> <li>講師会議は国家試験合格に向けて講義で必要な点がわかりやすく伝えることができていた。</li> <li>会議で規定と照らし合わせながら検討していったが、違って捉えてしまうものもあり、会議前には規定と必ず照らし合わせて考えておくことや学則検討をさらにしていく必要がある。</li> </ul>
	3) 専任教員の段階的成長できるよう支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教員が目標を到達するための研修を選択し学校として確認しながら受講できるようにしていった。しかし、出張による研修は各教員1回程度で十分とは言えない。</li> </ul>
	4) 快適な職場環境を整える。 (1) 年次有給休暇の取得 (2) 勤務終了時間が18時以上にならない (3) 月末金曜日 “no 残業 day”導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>年次有給休暇の取得は個人差が多かった。働き方改革で一年間に5日消化しなければ罰則が化せられる。</li> <li>1月からは学生課から提案で有給休暇の一年間の計画表により個人で計画的に消化していく。</li> <li>勤務終了時間は18時以上になることはあるが、18時半から19時の教員</li> </ul>

		<p>もいた。個人差が多く、働き方への意識の差がある。</p> <p>・月末金曜日に no 残業 day”としたが、声かけとホワイトボードに記入した。これも帰宅する教員も多かったが、個人の意識により差が出た。</p>
2.財源の維持を図りながら、学校環境を整える。	<p>1) 学生総数が 160～170 名で推移する。</p> <p>(1) 退学者数が 5 名以内となる</p> <p>(2) 留年者・卒業延期の学生が 5 名以内となる</p>	<p>・4 月は 160 名でスタートしたが、退学者が 10 名、各クラス 2 名以上は退学者（1 年：3 名・2 年：2 名・3 年：2 名・4 年：3 名）がいた。</p> <p>・留年者 1 年～3 年各 1 名、卒業延期者 3 名（そのうち 1 名退学）で総計 6 名おり、5 名以内の目標には達することができていない。学力低下による留年、卒業延期者は実習ができないなども問題があった。そのうち 1 名は、目標を持ち丁寧に学習し、来年度の実習の準備をすることができている。</p>
	<p>2) 受験者数が 100 名を下回らない。</p> <p>(1) HP やスマートフォン対応の内容の充実を図る</p> <p>(2) 本校の魅力を伝える手段の充実を図る</p>	<p>・昨年度受験者数が 107 名であったが、今年度は 84 名と約 20 名減少がある。毎年約 20 名ずつの受験者数が減少している。少子化、大学が多くできていることや雇用人数の増加から社会人受験数が減少しており受験者数が減少している。</p> <p>昨年度と同様に高校訪問や業者での進路相談 HP に毎月行事の様子など載せるなどしたが、受験者数が減少している状況にある。どのようにすれば魅力を感じてもらえるかさらに検討が必要である。教員の看護衣は好評であった。さらに広告の戦略を詰める必要がある。</p>
	<p>3) 設備点検と整備を行う</p>	<p>・実習室の給湯器設置・教室カーテン更新、非常灯など更新をした。</p> <p>教職員トイレの戸・実習室のカーテン設置などは優先度が低く先送りとした。</p>
	<p>4) 学則等の見直しと整理を行う</p> <p>(1) 学則検討委員会など実施</p>	<p>・学則については運営会議で検討し学則検討委員会で検討しなかった。来年度細かな学則を検討していく</p>
3.地域から高い評価が得られるような学校づくりができる。	<p>1) 看護の向上を目指して、探求心を養い、資格の習得ができる</p> <p>(1) 学校満足度が 80%以上の学生が 60%以上を占める</p> <p>2) 模擬試験のクラス偏差値が全国偏差値 50 を上回る</p>	<p>・6 月と比較して 11 月そして 2 月では少しずつ満足度は上がっていったが学校生活満足度 80%以上の学生が 60%以上を占めると言う目標は目標が達成できなかった。学習環境は整っていると答えているが、人間関係や個人の意識によると考える。</p> <p>・模擬試験のクラス偏差値は 4 年生で</p>

		は11月までは全国偏差値50を上回っていたが、12月・1月は少し下がった。3年生は偏差値50以上であった。1・2年生は偏差値41～45で50を下回った。
	2) 国家試験合格率100%が達成できる。	国家試験合格率100%となった。留年者など最後まで小グループでの学習により合格することができた。
	3) 尾道市内医療機関への就職率向上に向けて、働きかける。	尾道市内の就職率は10%で少なかった。県内の就職率は59%で合わせて69%となった。昨年度は80%までであったのもう少し尾道市市内に就職できるように働きかける必要がある。
	4) 進路・就職の相談の支援を行い、学生が希望する進路に進むことができる	・就職相談など適宜行い、業者にも入ってもらった。昨年度よりも学生の評価は良かったが、さらに細かい支援が必要であると卒業時のアンケート結果から感じた。
	5) 質の高い学生の確保に向けて、渉外活動	・高校訪問・進路相談で本校の魅力を伝えたが、本校を希望する人が少なくなったように感じる。子育て支援などに関する施設へ学校について理解してもらい、入学してもらえるように働きかける必要がある。
	6) 学校教育目標の公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生へアンケートをしたが、昨年度と比べて理由などの記入が少なく、学校の良さや課題がわかりにくいものであった。</li> <li>・卒業生が就職した施設にもアンケートをとったが、個人の差があるが、卒業生は施設に貢献できているように感じる。新卒に求めることとして知識や技術などよりも素直で誠実に働くことができることやコミュニケーションがとれる人を望んでいることがわかった。学生生活での指導が重要である。</li> <li>・卒業して1～3年の卒業生に対しての学校評価をする必要がある。Webなどでアンケートできる方法など検討する必要がある。</li> </ul>